

放送 毎週木曜日 21:30~21:45

ラジオNIKKEI

虎ノ門医学セミナー

～より良い地域連携医療をめざして～

企画・制作: 虎の門病院・医師と団塊シニアの会
提供: 総合メディカル株式会社



よい医療は、よい経営から

総合メディカル株式会社

2017年3月16日放送

「医療の国際化と今後の課題」

虎の門病院 副院長 整形外科部長
弘田 裕

今日は医療の国際化と今後の課題について話をします。

最初に医療の国際化とはどのようなことかについて話し、次に虎の門病院の現状について話したいと思います。

近年日本は観光を中心とした外国人の来日の増加を目指しています。

2016年にはおよそ2400万人の外国人が日本を訪れており今後もその数はますます増えていくことでしょう。それに伴い日本で医療を受ける人も増えていき病院には外国人に対応できる医療を提供できることが必要とされてきます。

外国人に対する医療には様々な状況があります。現在日本に在住している人に対する医療。海外から日本での治療が目的で来日する人に対する医療。仕事、旅行などで日本滞在中に病気、怪我、事故などになった人に対する医療。いわゆる人間ドックなどの検診を受けにくる人に対する医療などです。

病院環境・状況

- 東京都の区中央部保健医療圏に位置し、周辺には大学病院をはじめ500床以上の中核病院が林立する地区にある
- 近隣に中央官庁がある
- 駐日大使館・領事館(88ヶ国)や外資系企業も数多く立地しており、外国人居住者も人口の7.8%を占める
- 交通地下鉄「虎ノ門」駅より徒歩5分
- 環状2号線が開通し、虎ノ門地区の新たな街づくりが進んでいる
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック

日本の医療水準は世界的にも高いと評価されており、治療の質の点であり問題はないと言えます。しかし医療の国際化とはその国の文化を理解し、人間関係を構築し、外国人でも自国と同じような環境で医療が受けられることを目指します。そのためには様々な乗り越えなければならぬハードルがあります。

一番の問題は語学です。英語圏のみならず、近年は中国、韓国、東南アジアからも多くの方が訪れます。診療にあたってはお互いの意思の疎通が十分にとれなければなりません。ただでさえ不安なのにそのうえコミュニケーションが不十分となると、治療が進まないばかりか思わぬ誤解を生むことも多々起こります。

院内のスタッフだけで自由に言葉をあやつり不自由なく外国人とのコミュニケーションをとることは難しいことです。そのため受付、外来、病棟など多くの場所にいくつかの言語で書かれた案内板などが必要になります。また患者さんとの会話が必要になります。会話できる人材には限りがあり英語だけでなく様々な言語に対応しなければなりません。このようなときに役に立ついろいろなお助けグッズがあります。24時間対応の電話による対話サービスや、パソコンの画面を介して相手がしゃべると文字に訳され日本語で喋ってくれる翻訳ソフトなどです。

皆さんが検査や手術の時に内容を説明されサインをする書類、同意書なども英語を始め多言語で用意する必要があります。

最近鉄道の駅の案内は英語だけでなく、中国語、韓国語での案内もされるようになってきましたが、病院でも火災、地震などの災害時のために多言語でのアナウンスの準備が必要になります。外来、入院中での診察の仕方にも注意が必要です。世界中様々な国には異なった文化、宗教があり、生活習慣も異なりそれぞれに対応しなければなりません。毎日の食事では宗教上の理由で食べられないものがあります。毎日お祈りが必要なこともあります。そのため食事のメニュー、お祈りの場所の確保も必要になります。

これらの準備をして自国で診療を受けるのと同じように安心して治療を受けられるのが目指す国際化になります。ここで虎の門病院の取り組みを話していきたいと思います。病院のある港区は大使館や外資系企業も多く外国人居住者が区の人口の8%近くを占めており、ホテルも多く今後も旅行者の増加が見込まれます。

オリンピック・パラリンピック病院

表 11.11a オリンピック病院(東京会場)

病院名	病床数	選手村からの距離(km)	車での所要時間(分)
聖路加国際病院	471	2.2	4
虎の門病院	882	3.6	5
東京医科歯科大学医学部附属病院	730	6.6	8
東京都立墨東病院	669	7.4	10
東京都立広尾病院	419	7.6	9
日本医科大学付属病院	826	8.9	11
国立国際医療研究センター病院	678	9.9	12
東京都立多摩総合医療センター	721	8.2*	11*
独立行政法人国立病院機構 埼玉病院	350	3.5**	5**
埼玉医科大学国際医療センター	656	9.8***	16***

* 東京スタジアム(サッカー及び近代五種)からの距離・時間

** 陸上自衛隊朝霞訓練場(射撃)からの距離・時間

*** 霞ヶ関カンツリー倶楽部(ゴルフ)からの距離・時間

2020年には東京オリンピック、パラリンピックが開催され当院はオリンピック病院の一つに指定されたため一層外国人受け入れに対する準備が必要となっています。

やはり一番問題になってくるのは言語によるコミュニケーションの問題で通訳や翻訳機を利用する会話、院内の外国語表示の充実、院内文書の翻訳などを順次進めています。

外国人への困ったことについてのアンケートでもコミュニケーションの問題が上位に上がりましたが、予想外だったのは待ち時間が長いことが一番困るとのことでした。これは外国人に限らず日本人の患者さんも感じている問題で何とか改善していかなければならない問題と再認識しました。

外国人受診者を国別にみると中国人が40%、韓国人が15%、英語圏が15%くらいとなっており私達が多少なじみの深かった英語よりも中国語、韓国語の需要が多くなっておりこれらの言語への対応が今後ますます必要となってきます。

受診内容では人間ドックが一番多く、次いで日本在住の外国人の受診、怪我、事故などの救急外来の受診が続きます。今後は救急外来の受診が増えると考えられそうなる一層迅速なコミュニケーションが必要になりますし、その後の治療の継続の問題、医療費の支払いの問題もでてきます。

外国人患者対応への整備状況

- ・ 外国人患者対応部署の設置(医療連携部)
- ・ 主要院内文書の順次翻訳化
- ・ ホームページのグローバルサイト構築
- ・ タブレット通訳機の導入
- ・ 電話通訳(メディフォーン)
- ・ 企業派遣通訳との契約
- ・ 院内サインの英語表記化
- ・ 新病院国際メディカルセンター検討開始

今まで話してきたように外国人に十分な医療を提供することが国際化の大きな目標ですがここで虎の門病院のちょっと違った取り組みについて話してみたいと思います。

海外医師研修事業といいます。1983年から東南アジアの医師を中心に病院に招き、数か月実習をしてもら



海外医師研修事業(JCMT)について

1982年、通商産業省所轄の日本自転車振興会助成金交付事業として、虎の門病院が実施母体となるJapanese Council for Medical Training (JCMT)プログラムが発足しました。

<事業発足の背景>

- ・ 発展途上にある国々では、医療面において未だ先進国との格差が大きい。
- ・ 特に医療技術に関しては、医学研究機関の不足、医療情報や医療機関の遅れ、指導者の不足等により、最新の医療技術を習得する機会が乏しく、技術水準の向上を図る上でネックになっている。
- ・ 途上国の医療技術水準のレベルアップを図るためには、これらの国々の医師を日本に招き、最新の医療設備と最先端医療技術を有する医療機関において医療技術の研修を実施する医師受入研修が、最も有効な手段。

い医療技術を学んでもらう研修を続けています。これまで 300 人近くの医師が研修に訪れました。これらの医師は帰国後、国の医療の中心をになう人材となっており、診療とは違いますが、外に誇れる国際化ではないかと自負しています。

外国人が診療を受けるのにどの病院にかかればいいのかすぐにはわかりません。

最後に病院選びについて話します。

病院の国際化が言われ始めてからこの病院は外国人受け入れに対して一定の基準に達していますとの評価がされるようになってきました。どこの病院にいけばいいかわからないと悩む外国人の参考になればと始められた評価です。厚生労働省や経済産業省の支援を受けた制度です。

虎の門病院は、2017年1月に外国人患者受け入れ医療機関認証制度 (JMIP) と日本国際病院 (JIH) の2つの認証を取得しました。もちろん認証を取るのが目的ではありませんからこれからも中身を日々充実させていかなければならないと考えています。

国際診療に関係する外部評価

1. MEJ
Medical Excellence JAPAN
(H28年10月受審→**認証済**)
2. JMIP
Japan Medical Service Accreditation for International Patients
(H28年12月受審→**認証済**)
3. JCI
Joint Commission International
(2019年受審予定)

2年後の2019年5月の新病院開院に向けて施設だけでなく病院スタッフ全員が新たな気持ちで取り組んでいくつもりです。

今まで述べてきたように、外国人の受け入れには多くの課題があり、いろいろな準備をし対応を学ばなければなりません。そして大事なことは最善の医療を提供することですが、どんな時にも日本人のおもてなしの心を持って診療にあたるのが大切だと考えています。

